

御城印販売先・割印押印先情報

① 種里城（たねさとじょう）

販売先 光信公の館★
住所／青森県西津軽郡鯉ヶ沢町大字種里町字大柳 90（城内）
電話／0173-79-2535 開館時間／9:00-17:00(9-11月は16:30まで)
休館／月・木曜（祝日は開館）※11-翌4月は冬季休館・販売休止
販売先2 鯉ヶ沢町中央公民館★
住所／青森県西津軽郡鯉ヶ沢町本町209-2(城から約13.5km)
電話／0173-72-2859 開館時間／9:00-16:00
休館／土曜・祝日 ※11-翌4月は販売休止

② 浪岡城（なみおかじょう）

販売先 青森市中世の館★
住所／青森県青森市浪岡字岡田 43(城隣接)
電話／0172-62-1020 開館時間／9:00-17:00
休館／月曜（月曜祝日は開館）、祝日の翌日、年末年始(12.28-翌1.4)

③ 野辺地城（のへじょう）

販売先 野辺地町立歴史民俗資料館★
住所／青森県上北郡野辺地町字野辺地 1-3(城内)
電話／0175-64-9494 開館時間／9:00-16:00
休館／月曜（祝日の場合は翌日も）、祝日、年末年始(12.29-翌1.3)

④ 七戸城（しちのへじょう）

販売先 七戸町観光交流センター★
住所／青森県上北郡七戸町字荒熊内 207(城から約3.0km)
電話／0176-51-6100 販売時間／9:00-17:30 休館／年中無休

⑤ 根城（ねじょう）

販売先1 史跡根城の広場本丸受付
住所／青森県八戸市大字根城字根城 47(城内)
電話／0178-41-1726 開館時間／9:00-17:00
休館／月曜（第一月曜・祝日は開館）、
祝日の翌日（土日は開館）、年末年始(12.27-翌1.4)

販売先2 八戸市博物館★
住所／青森県八戸市大字根城字東構 35-1(城隣接)
電話／0178-44-8111 開館時間・休館◎根城販売先と同じ

⑥ 聖寿寺館（しょうじゅじたて）

販売先 史跡聖寿寺館跡案内所★
住所／青森県三戸郡南部町大字小向字正寿寺 81-2(城隣接)
電話／0178-23-4711 開館時間／9:00-16:30
休館／年末年始(12.29-翌1.3)

⑦ 三戸城（さんのへじょう）

販売先 三戸町立歴史民俗資料館★
住所／青森県三戸郡三戸町大字梅内字城ノ下 34-29(城内)
電話／0179-22-2739 開館時間／9:00-16:00
休館／月曜（祝日は開館）、祝日の翌日（土日は開館）
※12-翌3月は冬季休館販売休止

⑧ 九戸城（くのへじょう）

販売先 二戸市埋蔵文化財センター★
住所／岩手県二戸市福岡字八幡下 11-1(城から約1.0km)
電話／0195-23-8020 開館時間／9:00-17:00
休館／月曜（祝日は開館）、祝日の翌日（土日は開館）、12.29-翌1.3

⑨ 姉帯城（あねたいじょう）

販売先 御所野縄文博物館★
住所／岩手県二戸郡一戸町岩館字御所野 2(城から約6.0km)
電話／0195-32-2652 開館時間／9:00-17:00
休館／月曜（祝日は開館）、祝日の翌日（土日は開館）、年末年始

⑩ 久慈城（くじじょう）

販売先 道の駅くじ「やませ土風館」★
住所／岩手県久慈市中町二丁目5番6(城から約6.0km)
電話／0194-66-9200(久慈市観光物産協会)
開館時間／9:00-19:00 休館／1.1

⑪ 盛岡城（もりおかじょう）

販売先 もりおか歴史文化館★
住所／岩手県盛岡市内丸 1-50(城内) 電話／019-681-2100
開館時間／4-10月は9:00-19:00、11-翌3月は9:00-18:00
休館／毎月第3火曜（祝日の場合は翌日）、
祝日の翌日（土日は開館）、年末年始(12.31-翌1.1)

⑫ 高水寺城（こうすいじじょう）

販売先 紫波町情報交流館（オガールプラザ内）★
住所／岩手県岩手郡紫波町紫波中央駅前 2-3-3(城から約2.5km)
電話／019-672-2918 開館時間／10:00-21:30
休館／月曜（祝日の場合翌日）、館内点検日（月末の平日）、年末年始

⑬ 鍋倉城（なべくらじょう）

販売先 遠野市立博物館★
住所／岩手県遠野市東館町 3-9(城隣接)
電話／0198-62-2340 開館時間／9:00-17:00
休館／5-10月の月末、11-翌3月の月曜・月末日（月末日が祝日・日曜の場合は開館）、年末年始、資料特別整理日(11.24-30・1.28-31)

⑭ 土沢城（つちざわじょう） ⑮ 花巻城（はなまきじょう）

販売先 花巻市博物館★
住所／岩手県花巻市高松 26-8-1(城から約8.0km)
電話／0198-32-1030 開館時間／8:30-16:30
休館／9.30-10.6、年末年始(12.28-翌1.1)

⑯ 金澤城（かねざわじょう）

販売先 後三年合戦金沢資料館★
住所／秋田県横手市金沢中野字根小屋 102 番地 4(城から約1.0km)
電話／0182-37-3510 開館時間 9:00-17:00
休館・月曜（祝日の場合は翌日）、12.28-翌1.3

最新情報

南部お城めぐりの最新情報はフェイスブックをご確認ください。
<https://www.facebook.com/NanbuGojoinProject/>
みなさんのお城めぐりのお供に、南部お城めぐりガイドを。
<https://hcm-hit.github.io/nanbu-castles-tours/>



割印押印の心得

- 一、上記★印の販売先では、令和6年7月6日（土）～同10月31日（木）の期間、御城印に割印を押印することができます。
- 二、割印押印は無料です。
- 三、割印押印を希望される方は、販売先職員に対象の2枚の御城印を提示し、割印押印を希望する旨をお申し出ください。
- 四、割印はご来場者様に押印していただきます。押印ミスによる返金・返品は行いません。
- 五、割印のインクカラーは販売先ごとに異なります。
- 六、15種類の割印は、今年度のみ限定仕様ではありません。次年度も期間限定で同企画を実施します。

事務局

南部御城印プロジェクト事務局（八戸市博物館）
青森県八戸市大字根城字東構 35-1 0178-44-8111



20240706-1031

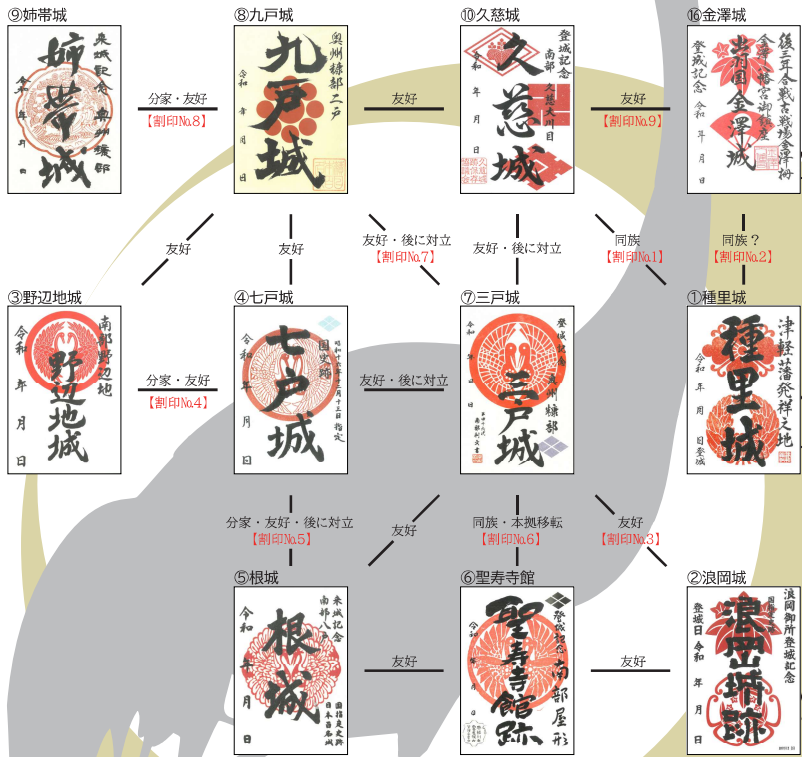


「なんぶのワライン」とは、令和6年7月6日（土）から同10月31日（木）の期間、南部御城印プロジェクトの御城印に割印を押すことができるという企画です。割印の組合せは16 城館15組で、内容はそれぞれのお城の関係性を示しています。割印を通し、より深く南部の歴史をお楽しみください。

中世の南部とお城

糠部に入部した南部氏は、郡中に分散し、それぞれの居城を構えた(④七戸城、⑥根城、⑥聖寿寺館、⑦三戸城)。後に南部氏一族は、分家や家臣(①種里城、③野辺地城、⑬金澤城)、在地の友好的な国衆ら(②浪岡城、⑨九戸城、⑨姉帯城、⑩久慈城)と連携し、広く北奥羽を治めた。

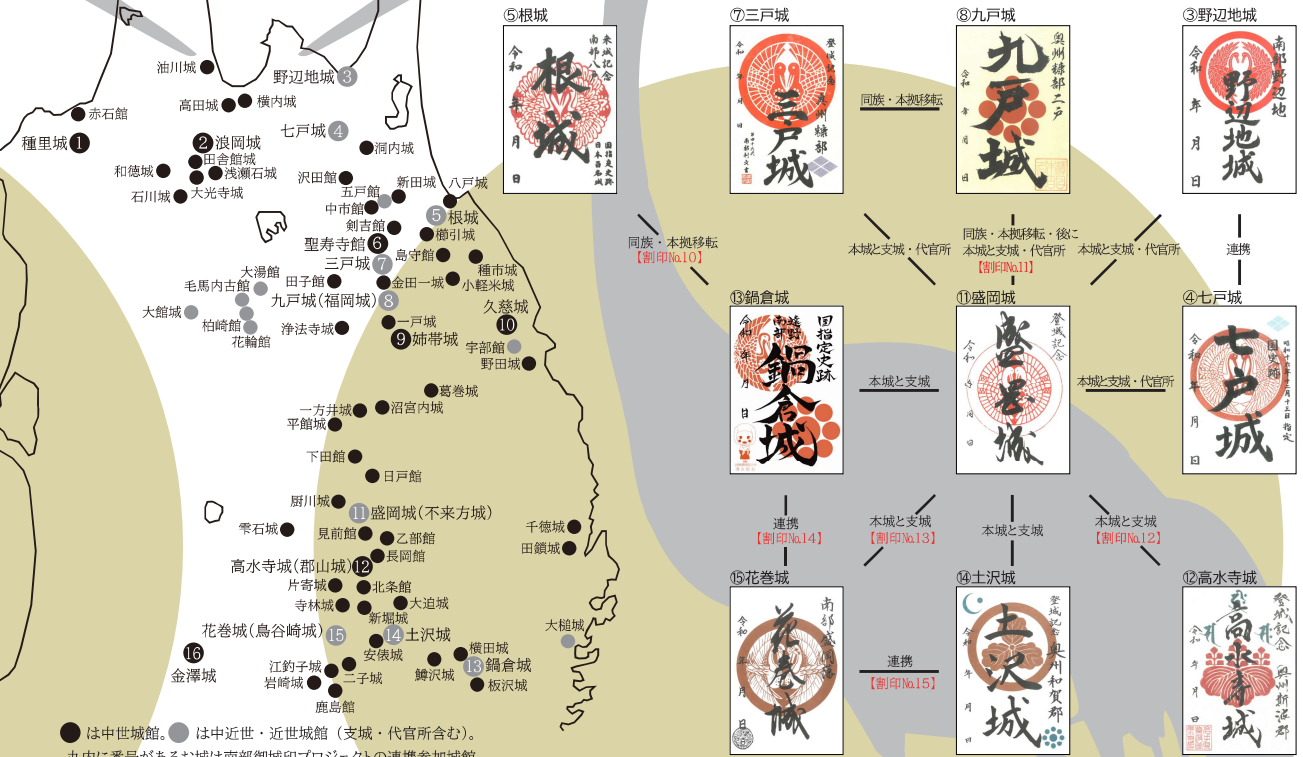
しかし、天正18年頃になると三戸南部家と九戸氏の対立が激化し、結果三戸方(⑦、⑨、豊臣軍)と九戸方(⑧、③、④、⑨、⑩)に分かれ雌雄を決した。これが世にいう九戸一揆である。



近世の南部とお城

九戸一揆に勝利し、名実ともに大名となった三戸南部氏は、自らの本拠を⑦三戸城から⑧九戸城(→福岡城)・⑩盛岡城へと移した。

中世独立領主(国衆)の多くは、三戸南部家の家臣に転じ、多くの中世城館は不要になった。中世城館の殆どは廃城になったが、要所に築かれた一部の城館は、近世盛岡藩の支城や代官所に転用され、引き続き活躍した(③野辺地城、④七戸城、⑦三戸城、⑨九戸城、⑫高水寺城、⑬鍋倉城、⑭土沢城、⑮花巻城)。



- 割印No.1** ①種里城 × ⑩久慈城 『御出立光信公御入部』
延徳3年(1491)、南部光信は軍勢を率いて久慈を出兵、種里城入り勢力を拡大した。光信を初代とする大浦氏は後に津軽藩を興す津軽為信を世に出し、光信は「津軽藩始祖」と崇められている。
- 割印No.2** ①種里城 × ⑬金澤城 『津軽御先祖津軽』
津軽藩の官撰史書『津軽一統志』附巻によると、種里城主南部光信を始祖とする津軽家の御先祖は、出羽仙北金澤に所領を有していた金澤右京亮だとされている。金澤右京亮の子孫は、下久慈を経て津軽に移ったとい。
- 割印No.3** ②浪岡城 × ⑦三戸城 『南部政信浪岡城派遣』
戦国末期、津軽地方一帯は日來勢力の南部氏と新興勢力の津軽氏によって、その支配権を巡る熾烈な争いが繰り返されていた。当主南部信直は、津軽の重要拠点「浪岡城」へ弟の政信を郡代として派遣した。
- 割印No.4** ③野辺地城 × ④七戸城 『南部領北方守護』
中世七戸南部家の本城である七戸城は、支城である野辺地城とともに、南部領内の北の要衝と位置づけられていた。七戸城は周辺地域の統括、野辺地城は西接する津軽領との境界警備を担う重要な存在だった。
- 割印No.5** ④七戸城 × ⑤根城 『七戸応永己亥八戸』
14世紀後半、根城南部家当主南部政光は家督を甥に譲り、自らは七戸城に隠居した。政光の後裔は七戸南部家として分立、以降根城南部家と七戸南部家は「ぬかのふんぬ一族」を支える有力氏族として共存共栄した。
- 割印No.6** ⑥聖壽寺館 × ⑦三戸城 『本三戸炎上新三戸』
本三戸(聖壽寺館)を拠点とした三戸南部家は、巧みな戦略により北奥羽で最大勢力を築いた。天文7年 更なる領土拡大と本三戸の炎上を契機に、中世糠部最大の山城「三戸城」へ拠点を移し、覇権獲得へと乗り出した。
- 割印No.7** ⑦三戸城 × ⑧九戸城 『九戸一揆』
豊臣秀吉に属した南部直直は南部内七郡の領主として認められる。一方で九戸政実を筆頭とする地領主らは独立維持を貫き、両者の対立は激化。天正19年、九戸氏と三戸家の存続をかけた戦い「奥州糠部の地」で始まった。
- 割印No.8** ⑧九戸城 × ⑨姉帯城 『九戸方天正十九龍城』
天正19年(1591)に起こった九戸一揆の際、姉帯城に籠る九戸方の姉帯氏は、津野長吉ら再仕置軍に攻められ、わずか1日で落城した。その後、戦いの場は九戸城籠城戦へと移行する。
- 割印No.9** ⑩久慈城 × ⑬金澤城 『金澤右京亮南部』
金澤右京亮家光は出羽仙北金澤に所領を有していたが、侍の一揆に巻き込まれ、幼少の嫡男(南部右京亮家信)は家光の家臣により南部の地に届けられ、後に家信は本領であった下久慈を知りたると伝えられている。
- 割印No.10** ⑤根城 × ⑬鍋倉城 『八戸弥六郎直義』
根城南部家(遠野南部家)当主は代々、八戸弥六郎を名乗り、藩の筆頭家老を務めた。直義は1620年分家新田家から養子に入り家督を継ぐ。1627年藩主の命で八戸から遠野に村替し、藩境警備にあたりながら遠野の礎を築く。
- 割印No.11** ⑧九戸城 × ⑩盛岡城 『福岡城』
天正19年(1591)に起こった奥羽再仕置の最後の戦場となった九戸城。落城後、九戸政実を降した南部直直が入城し「福岡城」と改称した。寛永10年(1633)に信直の孫の重直が、盛岡城に入るまで三戸南部家の拠点となった。
- 割印No.12** ⑩盛岡城 × ⑫高水寺城 『郡山城』
天正16年(1588)、高水寺城主津波詮直は南部直直に敗北。高水寺城は郡山城と改称された。盛岡城築城に際しては南部直直の居城となったが寛文7年(1667)破却され、古材は盛岡城本丸に用いられたといわれる。
- 割印No.13** ⑩盛岡城 × ⑮花巻城 『盛岡城北上山花巻城』
盛岡、花巻とつて北上川の存在は城下の防衛的・経済的にも重要な河川であった。一方では脅威ともなり、江戸時代は北上川の氾濫による洪水で両城下町ともに甚大な被害を受けており、改修工事を行っている。
- 割印No.14** ⑬鍋倉城 × ⑮花巻城 『盛岡藩領南端守護』
鍋倉城と花巻城は、広大な盛岡藩領において、最も警戒すべき伊達山台藩との境で、最前線基地ともいえる重要な役割を担っていた。この重要拠点に盛岡藩は一族の根城南部氏直義と藩主子息の政直を配置した。
- 割印No.15** ⑭土沢城 × ⑮花巻城 『対伊達睥睨之城』
慶長17年(1612)、花巻城と鍋倉城の中間地点に土沢城が置かれたことで、盛岡藩南端は岩崎城から大館城に至るまで、仙台藩城の守備が一層強固なものとなった。土沢城3代目城主江刺長房は花巻城代も務めた。